

兵庫県の蝶雑記 (2)

広 畑 政 己

1) ナガサキアゲハ大発生後の分布について

本種は1976年ごろまでは県下では稀に見かける程度で土着種としては考えられていなかったが、1977年には多くの個体が採集され、その後現在に至るまでさらに分布を広げ、南部一帯に土着するようになった。

1983年には少ないながら内陸部からの記録も散見されるようになり、近年は北部からの記録も聞くようにまでなっている。その後の記録を拾ってみると、南部では大河内町峰山、一宮町曲理、市川町上牛尾、南光町船越、安富町安志、山崎町今宿、夢前町文殿等があり船越、安志、今宿では春季に確認されている。上牛尾に於ては1986年に蛹で越冬し、翌春羽化している。これらの状況をみると当地に於ては土着するための条件として、気温の問題が上げられていたが、これが主な条件ではないように思われる。

一方北部では1982年に豊岡市で初記録があり、¹ 1986年には日高町²と豊岡市³で採集目撃記録があり、1988年7月には浜坂町久斗山で2♀が採集されている。⁴

2) アサギマダラの移動に関する記録

1986年9月7日に氷ノ山の坂の谷林道にて本種のマーキング調査を行った。午前10時から午後1時30分の間に47頭にマーキングして放したが、その後再捕獲されたという便りは残念ながら入っていない。氷ノ山でマーキングした個体は氷の山と明記し、⁹/₇と日付がうってあるので、もし目撃または採集された方があればぜひ御連絡いただきたい。

毎年8月上旬から中旬にかけてはかなりの個体が見られるが、9月に入ると数が減るようである。またマーキング中に感じたことであるが、47頭をマーキングして放した後、3時間30分の間に再捕獲した個体は僅か3頭であった。吸蜜植物もふんだんにあり、元の場所に戻ってもよいと思われるがこのような結果になったことは興味深い。

この他の移動に関する記録として1986年9月7日に赤穂市周世にて西の山に向って移動する本種を目撃した。同日龍野市でも揖保川の上空を東方から西に向って移動中の本種を目撃しているので報告しておく。

3) 新宮町二柏野で採集した *zephyrus* の卵

1985年1月6日に新宮町二柏野でウラジロミドリシジミの卵を5卵、ウスイロオナガシジミの卵を8卵採集しているので報告する。当地では初記録と思われる。この他にミズイロオナガシジミ、アカシジミも採卵している。産卵していた木はいずれもナラガシワである。

4) ウラナミシジミが牛糞を吸汁

1988年9月25日に上郡町大枝新にて牛糞に吸汁に来たウラナミシジミを観察した。吸汁していたのは3頭の雄ですべて新鮮な個体であった。吸蜜植物キク科マメ科などかなり広い範囲で知られているが、このような例は聞かないので報告をする。

5) コムラサキの越冬についての知見

1984年11月25日に千種町鍋ヶ谷にてカワヤナギで越冬している幼虫を確認した。幼虫は5頭で、幹の直径約15cmの地上1m 50cm～2mの北側に4頭と北西側に頭見られた。

幼虫の静止した頭の位置は上向が3、下向が1、横向が1で定った方向性はなく、樹皮のくぼみ等に併せているようであった。珍しくないかもしれないが書き留めておきたい。

本文を草するに当り次の方々にお世話になった。ここに記して御礼申し上げる。

近藤伸一、高嶋明、花岡正、谷川勝彦、山下剛史、徳岡正巳、上田倫範、稲田和久（順不同敬称略）

〈参考文献〉

1. 広畑政己(1987)兵庫県に於けるナガサキアゲハの分布の変遷について 昆虫と自然 18(5):18-22
2. 上田尚志(1987)城崎郡日高町でナガサキアゲハを採集 IRATSUME(11) 100-101
3. 木下賢司(1987)豊岡市内でナガサキアゲハを目撃 IRATSUME (11):101
4. 但馬むしの会(1988)サキアゲハ浜坂町で採集される。混蟲ずかん(20):1

Masami Hirohata 姫路市